

【2020年3月期 第1四半期決算公表（P0）】

CFOの内田です。

本日は、お忙しい中ご参加頂き誠に有難うございます。

それでは2020年3月期第1四半期の決算内容をご説明します。

当四半期の決算は、金属資源・エネルギーが堅調、また機械・インフラや化学品、生活産業も概ね計画通りの進捗となったことから、順調な滑り出しとなりました。

【経営成績サマリー（P3）】

それでは、プレゼンテーション資料3ページをご覧ください。第1四半期の経営成績サマリーについてご説明します。

当社の四半期利益は、前年同期比66億円増益の1,250億円となり、事業計画に対する進捗率は28%、また、基礎営業キャッシュ・フローは1,559億円の獲得となり、進捗率も24%となりました。運転資本及び定期預金の増減の影響を除外したフリーキャッシュ・フローは539億円の黒字となりました。

成長分野において、世界最大の海老生産加工事業会社であるベトナム Minh Phu 社への出資参画や、華潤グループ 及び HOPU 投資と中国向けヘルスケアファンド設立に合意するなど、収益基盤の強化に向けた取組みを着実に進めています。

世界経済は、全体として停滞感が強まっております。米国では良好な雇用所得環境を背景に個人消費は底堅く推移するものの、減税効果が徐々に剥落すると見込まれるため、景気拡大のペースが落ちていくと予想されます。また、中国では政策による一定の下支えはあるものの、米中貿易摩擦の影響もあり景気減速が続くと予想されます。

引き続き、商品市況や為替の動きを含め、当社を取り巻く経営環境に十分に留意しながら、当期計画の達成に向けて経営にあたります。

【重点施策：強固な収益基盤づくりと既存事業の徹底強化（P4）】

4ページをご覧ください。

中期経営計画の重点施策である、「強固な収益基盤づくりと既存事業の徹底強化」の進捗についてご説明します。

金属資源・エネルギー、機械・インフラ、化学品からなる中核分野は、当四半期利益の合計が 1,108 億円となり、当社全体の 9 割近くの利益を生み出しています。

金属資源・エネルギーは、鉄鉱石の市況堅調に加え、エネルギーではトレーディングも好調であったことから、当四半期利益は 899 億円、基礎営業キャッシュ・フローは 1,197 億円と順調な進捗となりました。これに加え、米国 Cameron の生産開始、モザンビーク Area1 の FID、ロシア Arctic2 への出資参画など、LNG 案件を中心に、強固な収益基盤をさらに強くする施策を着実に進めることができました。

機械・インフラは、当四半期利益及び基礎営業キャッシュ・フロー共に、自動車関連事業等の季節性要因や航空機関連事業の収益の期ズレもあり、通期計画に対する進捗率は 19%となっていますが、計画通り着実に進捗しています。また、当四半期にはメキシコ向け FPSO の新規 1 隻に出資参画するなど、収益基盤強化を進めています。

化学品は、計画比若干未達の事業も一部あるものの、概ね予定通り進捗しております。不透明感が高まる市場環境に注視しながら、引き続き事業計画達成を目指していきます。

【キャッシュ・フロー・アロケーション (P5)】

5 ページをご覧ください。

当四半期のキャッシュ・フロー・アロケーション、及び資産リサイクルと投融資の実績をご説明します。

資産リサイクルは 200 億円の獲得となり、基礎営業キャッシュ・フロー 1,550 億円の獲得とあわせ、1,750 億円のキャッシュ・インとなりました。

一方、投融資は、合計で 1,200 億円のキャッシュ・アウトとなり、この結果、フリーキャッシュ・フローは 550 億円の黒字となりました。

主な投融資案件としては、海老生産加工事業会社であるベトナム Minh Phu 社への出資参画を実行したほか、中東 IPP 事業向けへの融資などがありました。今後も厳格な投資規律の下、バランスよく中核分野、成長分野にキャッシュを配分することで中長期的な成長を実現すると共に、株主還元後のフリーキャッシュ・フロー黒字化による財務基盤強化との両立を目指します。

【バランスシート (P6)】

6 ページをご覧ください。当四半期末のバランスシートについてご説明します。今期から、リース会計基準変更に伴い、リース負債を含めた長短債務をバランスシートの図に示しました。尚、長短債務からリース負債を除外したものを有利子負債とし、「主な残高・増減」に表記、当期よりネット DER の計算からリース負債を除外しています。

2019年3月末と比較して、ネット有利子負債は288億円増加の3兆6,000億円となりました。一方、株主資本は、293億円減少の4兆2,000億円となりました。この結果、当期よりリース負債を除外したネット DER は0.86倍となっています。

(兜・貿易)

以上で、私からの説明を終わります。(約7分)

(テレカン)

以上で、私からの説明を終わり、続いて経理部長の重田より、四半期業績の詳細をご説明します。

＝ 経理部長パート ＝

【経営成績の詳細 (P7)】

経理部長の重田です。

それでは、経営成績の詳細についてご説明します。

【セグメント別四半期利益 前年同期比 増減要因 (P8)】

8 ページをご覧ください。

まず、当四半期利益の前年同期比増減について、セグメント別にご説明します。

当四半期利益は、前年同期比 66 億円増益の 1,250 億円となりました。

金属資源は、鉄鉱石の市況堅調を背景に 93 億円増益の 490 億円の利益となりました。

エネルギーは、238 億円増益の 409 億円の利益となりました。モザンビーク Area1 FID に伴う繰延税金資産計上に加え、METS のトレーディング好調によるものです。

機械・インフラは、14 億円増益の 168 億円の利益となりました。

化学品は、市況軟調による事業会社の収益減 や 前年同期における一過性利益の反動を主因に、58 億円減益の 41 億円の利益となりました。

鉄鋼製品は、前年同期の関係会社における土地売却益の反動に加え、市況軟調により、53 億円減益の 15 億円の利益となりました。

生活産業は、マルチグレインにおいて、前年同期における事業撤退に係る引当金の一部取崩益の反動を主因に、101 億円減益の 76 億円の利益となりました。

次世代・機能推進は、FVTPL の評価損に加え、前年同期の評価益・売却益の反動を主因に、84 億円減益の 21 億円の利益となりました。

【セグメント別基礎営業 CF 前年同期比 増減要因 (P9)】

9 ページをご覧ください。

基礎営業キャッシュ・フローの前年同期比増減についてセグメント別にご説明します。

当四半期の基礎営業キャッシュ・フローは、前年同期比 14 億円増加の 1,559 億円の獲得となりました。

金属資源では、鉄鉱石の市況堅調を背景に 96 億円増加の 579 億円の獲得となりました。

エネルギーでは、トレーディング好調 や 配当金の受取増加を主因に、89 億円増加の 618 億円の獲得となりました。

生活産業では、リース会計基準変更を主因に、31 億円増加の 116 億円の獲得となりました。

【増減要素別前年同期比 (P10)】

10 ページをご覧ください。

ここでは、当四半期利益を前年同期と比較し、その増減を要素別にまとめています。

「基礎収益力」は、前年同期に計上した FVTPL での評価益・売却益の反動がありましたが、METS のトレーディング好調に加え、トラックリース・レンタル事業などが増益要因となりました。

次に「資源コスト・数量」は、鉄鉱石において、販売価格の上昇によるロイヤリティ増など、約 40 億円のコスト増がありました。また、エネルギーでは Vincent/Enfield 生産停止を主因に数量減となり、約 30 億円の減益となりました。

「資産リサイクル」は、前年同期における関係会社の土地売却益の反動がありましたが、生活産業や次世代・機能推進におけるリサイクル益により、約 30 億円の増益となりました。

一方、「市況・為替」は、主に鉄鉱石販売価格の上昇を主因に約 200 億円の増益となりました。

また、「評価性」は、前年同期におけるマルチグレイン関連引当金の一部取崩益の反動がありましたが、モザンビーク Area1 FID に伴う繰延税金資産計上などにより、約 60 億円の増益となりました。

以上をもちまして、私の説明を終わります。(約 4 分)